

子どもの権利条約ワークショップ おとなと子どもで考える

開催概要

日時 2025年2月6日(木) 放課後

会場 横浜市立義務教育学校緑園学園

主催 緑園学園PTA

参加者 保護者(PTA役員)9名、

生徒(生徒会役員中学1, 2年生)6名、教員1名

司会進行 東森清仁副校長

ゲストスピーカー 池田礼子(日本ユニセフ協会)

今回の「子どもの権利条約」について知るワークショップは、学校の協力のもと、PTA主催で行われました。参加したのは、ちょうど代替わりをしたばかりの生徒会メンバーとPTA役員の保護者。ほとんど初顔合わせのおとなと子どもが、年齢や立場を超えて一緒に楽しむワークショップです。

少し緊張した雰囲気の中、アイスブレイクを挟んで、日本ユニセフ協会職員より、ユニセフの活動はすべての子どもの権利を守るための活動であること、などが紹介されました。

続けて、動画「学んでみよう!子どもの権利」を視聴し、子どもの権利についての理解を深めました。



グループワーク

「子どもの権利条約」の存在を初めて知った、という参加者も多い中、いよいよグループワークです。おとなと子ども混合の5～6人グループに分かれて考えます。手掛かりになるのは、具体的な子どもの権利を一覧した [「子どもの権利条約」第1～40条](#)のプリントと、ユニセフからのお話や動画の内容です。先生もグループの話し合いに参加し、「気になる権利」「大切だと思う権利」「身近に感じにくい権利」などについて、意見交流をしていきます。



話題

一つのグループでは、第12条の「意見を表明する権利」について、生徒の一人から、“友だちと意見が衝突することを想像して、自分の意見をひっこめてしまう”という話が出ました。

保護者

たとえば、先生に対しては言えるの？

先生①

言いづらいとかあるのかな。
みんなが思い思いに自分の意見や相談事を先生に言えている状況にあるのかは、すごく知りたい。

生徒①

担任の先生とかは、何かあったらいつでも聞くと、言ってくれるから、聞きやすい。

先生②

部活でも、声をかけると相談してくれることがあるので、声かけは大事にしている。

保護者①

先生が忙しそうだから、話したくても話せないことがあると、子どもに聞いたことがある。

保護者②

家でも、朝とか、忙しい時は「今はやめて」って言ってしまう。「待ってね」と言うばかりだと聞いてくれないうって思われちゃうかも。今、気づいた。「いつなら聞くよ」って言ってあげないとね。

先生①

教師としても、親としても耳が痛いですね。やっぱり忙しそうにしているとよくないですね。

第12条について、それぞれの立場からの意見が出たことで、子どもたちが意見を言うには、まず、意見を聞いてもらえる環境が大切なのでは、という気づきが生まれました。





話題

別のグループでは、生徒から、「闇バイト」に加担した若者が無期懲役になったニュースに、子どもの権利が関係するのでは、という意見が出ました。

第17条の「適切な情報の入手」が守られていたら、無期懲役にまでなったりしないんじゃないか。

生徒①

保護者①

確かに。子どもが闇バイトで捕まったら、親は、よくない仕事から子どもを守れていなかったってことだよな。

保護者②

おとなならこの仕事でこの報酬はありえないと思えるけど、子どもはわからない。教育を受ける権利も関わりがあるかも。

第32条の「経済的搾取・有害な労働からの保護」も関係しそう。

生徒②

どんな権利が守られていれば防げたのか、子どもたちが身近に不安を感じるニュースから、考えを深めていました。

話題

他のグループでは、実際にこれらの権利を守ろうとすると、ぶつかる疑問についても話題になりました。

保護者①

親は教育を受けさせる義務があるけれど、働きたい、というのが子どもの意思だったら、どちらが優先されるんだろう？矛盾しているのかな？

学校に行かずに働きたいなんて、考えたこともなかった。

生徒①

働くのにも教育が必要じゃない？

生徒②





最後に、各グループの意見や疑問を全体で共有する時間を設け、会を終えました。



1時間という短い時間でしたが、おとなと子どもと一緒に考えるという貴重な機会となったようです。参加者からは、自分たちだけが知っているだけでは十分ではないので、家庭や、自分のクラス、あるいは、保護者も参加する形式の授業参観でも取り上げてほしい、という言葉がありました。ワークショップをきっかけに、学校全体で「子どもの権利」について考えていく機運の高まりを感じる時間でした。

参加者の感想

親は最善の道と思ってやっているけれど、子どもにとってそうなのか、正しいのかわからない。子どもも親も会話することで、こうしていこうかって調整していく。会話とかコミュニケーションが大事なのかな、って話してみています。

保護者

おとなの人たちも、子どもが意見を言わなきゃわからないから、言ったり、きいてもらったりする時間をもっとつくったらいいのかなと思いました。

生徒

この機会を生徒会で生かせたらいいよね、って話しました。

生徒

始まる前は、子どもたちに意見を主張されるんじゃないかとドキドキしたけれど、闇バイトのこととか、私たち親が気にしていなかったことと結びつけたりして、子どもの目線に気づかされた。自分の子どもとも感じ方が違うということも、今日、わかってよかったです。

保護者

おとなも子どもも、知らなかったことを知れたので、やってよかったなど。子どもと一緒にできたので、おとなも一歩引いて話を聞こうと思ってできた。学校は、子どもたちが思っていることを言ってくれたら、先生たちにはそれを聞く準備がある、ということだったので、おとなの目を気にせず意見を言えるようにしてあげたいと思います。

高橋PTA会長

きかせて



左から高橋PTA会長、東森先生



左からユニセフ池田、高橋PTA会長、東森先生

子どもの権利条約ワークショップ おとなと子どもで考える

進行ガイドライン | 所要時間60分程度

- 「子どもの権利条約」第1～40条を見ておくなど、事前学習を行ってもよい。
- グループワークの時間は人数や状況に応じて調整してもよい。

内容

使用ツール、注意点

導入・アイスブレイク

- テーマを決めて短く話をするなどアイスブレイクを行う。
(例)
 - ▶ 周囲との違いにとまどったこと
 - ▶ 会の目的の紹介
「一人ひとりの違いを認める時間になるといいですね」

ユニセフからのお話

- ユニセフと子どもの権利
- ユニセフと日本の子どもとの関わりについて

動画視聴

- 「子どもの権利条約」と子どもの権利について

プリント配布

- 「子どもの権利条約」第1～40条を全員に配布する。

グループワーク

- 「子どもの権利条約」第1～40条を見ながら意見交流をする。
※テーマは実態に合わせて調整する
(例)
 - ▶ 自分たちの学校や生活を振り返って関わりのある権利は？
 - ▶ 大切だと思う権利はどれ？なぜ？
 - ▶ 驚いた権利はどれ？ など

シェアの時間

- グループで一人、話し合いの内容をまとめて話す。
- それぞれの発表について、司会役の先生や他のグループから感想を伝える。

[📄 スライド「ユニセフと考えよう！子どもの権利」](#)

[📺 動画「学んでみよう！子どもの権利」](#)

[📄 「子どもの権利条約」第1～40条](#)

- 子どもがグループ内で一人にならないように配慮して班分けする。
- 1～40条のうち、自分たちの生活に関わりのある権利にしばって話をしてもよい。
- 模造紙や付箋など、話を可視化するツールを活用してもよい。

- グループでの話し合いで使用した模造紙や付箋などを使って発表してもよい。

